

2025 年度大学一般選抜第 1 回・
短大一般選抜（共通）
問題と解答

試験科目・配点

試 験 科 目	時 間	配 点
英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰ）	50分	100点
国語（現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く））	50分	100点

英語

I. 次の長文を読んで、各問いに答えなさい。

①Most people know that it is possible to recycle many things. If you recycle your old glass bottles, people can use them to make new glass bottles. If you recycle plastic bottles, factories can make new bottles from the old plastic. The newspapers you read are probably made from recycled paper too.

②But did you know that recycling can also be a way to make many other unusual and beautiful things?

③In many places people are thinking of different and exciting things that they can make from recycled materials.

Paper can be recycled in many different ways. If you (ア) around an office or a kitchen or a bathroom you will probably see different kinds of recycled paper : writing paper, computer paper, and even the pretty paper that we put our presents in.

But recycled paper can be used in more unusual ways too. For example it is sometimes made into a special material to keep houses warm. This material is put inside the roof, and ④it stops the warm air from the house from escaping through the roof. The people (イ) live in the house stay warmer in winter and they use (ウ) electricity to heat their home.

Did you know that paper is also used to make roads? The top part of a road contains recycled paper. It helps to stop road accidents because it (エ) roads safer in wet weather. It is used at airports too for the same reason. It helps the planes to land safely when the weather is wet.

【出典】

Recycling by Sue Stewart

1. 空所（ア）～（エ）に入る最も適切な語句を選び、記号で答えなさい。

- （ア） a. take b. see c. look d. have
（イ） a. who b. whom c. whose d. which
（ウ） a. few b. less c. much d. more
（エ） a. allows b. enables c. causes d. makes

2. 下線部①を和訳しなさい。

3. 下線部②を和訳しなさい。

4. 下線部③を和訳しなさい。

5. 下線部④はどのような意味か。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 屋根にリサイクルペーパーで作られた材料を設置すれば、家から暖かい空気が外へ出る。
イ 屋根にリサイクルペーパーが原料の素材を取り付けなくても、家の暖かい空気は逃げない。
ウ 屋根にリサイクルペーパーが原料の材料を設置すると、家の暖かい空気は外に出ない。
エ 屋根にリサイクルペーパーが原料の素材を取り付けなくても、外からの冷気は入らない。

6. 本文の内容と合致するものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 新聞にはリサイクルペーパーは使われていない。
イ リサイクルペーパーは贈り物の中に入れるきれいな紙に使われることがある。
ウ 道路の中には底の部分に、リサイクルペーパーが使われているものがある。
エ 空港で使われているリサイクルペーパーが、飛行機が安全に離陸することを助ける。

II. それぞれの空所に最もよく当てはまる語句を選び、番号で答えなさい。

1. I () often go to the zoo with my mother in my childhood.
① used ② might ③ would ④ should
2. The day will come () you will understand the value of your parents.
① why ② when ③ which ④ what
3. I had difficulty () the device properly.
① used ② to use ③ to using ④ using
4. Mary is () than she used to be.
① less rich ② not rich ③ rich ④ the least rich
5. Tom () on the TV to watch a baseball game.
① got ② turned ③ took ④ made
6. () I want to study abroad, I will apply to an English conversation school.
① Although ② Despite ③ Unless ④ Since
7. Ken was () with his new car.
① please ② pleasing ③ to please ④ pleased
8. Anne () me waiting at the coffee shop for about an hour.
① reminded ② left ③ remained ④ got
9. I know the museum () the painting is exhibited.
① where ② what ③ which ④ why
10. () her warm personality, she is very popular at work.
① Thank for ② Thank to ③ Thanks to ④ Thanks for

Ⅲ. AとBの会話が自然なやりとりになるように、空所に入れるのに最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

1. A : How long will it take to get to Okayama?

B : ()

- ① I have lived there for five years.
- ② I have visited Okayama three times.
- ③ I will take the train to get there.
- ④ It will take two hours by car.

2. A : Do you know who wrote this article?

B : ()

- ① It has been read by many people.
- ② Mr. Suzuki did.
- ③ That is a great article.
- ④ It dealt with environmental issues.

3. A : May I help you with your work?

B : ()

- ① That work is wonderful.
- ② I can't help you.
- ③ Thank you. I would appreciate it if you could do that.
- ④ You are welcome.

4. A : Would you be able to come to the party?

B : ()

- ① Certainly. I'm going to go hiking with my family tomorrow.
- ② No, you wouldn't.
- ③ Of course. I'd be happy to.
- ④ It is a birthday party.

5. A : What do you think of Jane?

B : ()

- ① She went to London on a business trip yesterday.
- ② Yes, I like her.
- ③ No, I don't think so.
- ④ She is a sensible person.

Ⅳ. 日本文と同じ意味になるように () 内を並び替えたとき、() 内で2番目と4番目にくるものの番号を答えなさい。ただし、文頭に使う語も小文字で書かれています。

1. その英語教師の助言により私は海外留学を決心した。

The advice from the English teacher (① study ② me ③ abroad ④ decide
⑤ made ⑥ to).

2. 学生の時は、いくら勉強してもしすぎることはない。

You (① too ② study ③ can ④ much ⑤ never) when you are a student.

3. 私には父親がニューヨークで暮らしている友人がいる。

(① lives ② have ③ friend ④ father ⑤ a ⑥ whose ⑦ I)
in New York.

4. 彼は暇な時は小説を読んで時間を過ごした。

He (① reading ② his ③ time ④ spent ⑤ free) novels.

5. この建物はあの建物より10メートル高い。

This building (① that ② ten ③ taller ④ is ⑤ than ⑥ meters)
one.

国語

一次の文章を読み、後の問いに答えよ。(設問の都合上、文章の一部を改変してある。また、設問の都合上、各段落の冒頭に番号を付してある。)

①自分のやっていることに意味があるのか。自分に存在価値があるのか。大切なものを探しているけど、まったく見つからない。何をやっても、砂をかむようで、苦く味気がない。徒労感を覚え、心にぼつかりと穴があき、そこを風が吹き抜ける。むなししい。

②現代を生きる誰もがそんな感覚を抱いた経験があるでしょう。もちろん私にもあります。むしろ、私はそういう感覚にピンカン^①だったように思います。むなししいと感じることが、昔から多くありました。その感覚に襲われて、若いころかなり苦しんだこともあります。いったい、何のためにこんなことをやっているのか、自分のやってきたことは全部、無意味だったのではないかと。そして、何度となくため息をつく。

③最近になって私は、それが生きていくうえで普通の感覚なんだろうとも感じてきました。そんな感覚に襲われないうちに越したことがないとは思いつつも、でも、これも喜怒哀楽の一つであり、なくすことはできないのだろうと。

④ところが、この「むなしさ」という感覚について他人に話してみると、否定的なハンノウ^②をされることが多いのです。そんな感覚に襲われることは、無駄なことであり、恐ろしいことであり、要するに、あつてはいけないことのように思われています。

⑤でも私にとって、むなししいと感じるということは、立ち止まって、自分を見つめ直すことでもあります。確かに、現代社会をみまわしてみると、こうした場や機会を回避しようとするのが普通のようなのです。

⑥たとえば、電車に乗れば、ボーッと窓の外を眺めている人はずいぶんと少なくなりました。皆、スマホに釘付けです。スマホというのは、本当に便利なものです。文字も音楽もエイゾウ^③も果てしなく与えてくれる。欲しいものを探して、手に入れることも一見、簡単にできるようにみえる。ふと立ち止まって、自分を

見つめたり、いろいろ考えたりしなくてもいいわけです。暇な時間を埋めてくれて、気を紛らわしてくれる。⑦すなわち「間」というものを埋めてくれる。むなししい「間」が生じないように回避してくれるのです。スマホに限らず、私たちの周囲には、ジョウホウ^④であり、商品であり、娯楽スポットであり、「間」を生じさせないような仕組みがはりめぐらされています。かつては、「間」をつぶすのに、たとえば、タバコを吸ったり、お酒を飲んだりして、ふとため息をついたりもししていました。こうした「間」のアナログ的な使い方と、スマホで「間」をデジタル的に埋めるのは違うでしょう。

⑧いまや、「間」があいたことを感じることもとても少ないのです。同時に、街からも「間」はカクジツ^⑤に消えていっています。かつてはどこにでもあり、子どもたちが遊んでいた空き地などはどんどんなくなっています。利用されていない無駄な土地として活用することが主張され、マンションが建てられたり、商業施設が建設されたりと、利用目的が与えられて明示される。都会などでは、何の飾り気もない白い壁、意味のなさそうな空き地などもなくなり、広告や看板などに埋め尽くされている。何の目的もない、ただあるだけという「間」は、存在してはいけないかのように、どんどんと埋められているのです。

⑨こうした環境の中で、私たちはむしろ「間」というものに対して極めて弱くなっているのではないでしょうか。「間」が存在しないよう周到に回避されているために、ある日突然それでも埋めることのできない「間」が現れたとき、私たちの心は戸惑ってしまうことでしょう。どう対処してよいのかわからず、耐えら

れなくなってしまうでしょう。現代において、「間」は悪いものであり、とてつもなく怖いものとなっているようです。

⑩そこで、私のことを振り返ってみると、私は「間」を比較的うまく使ってきたように思います。歌が生まれるのは、たいてい旅の途中だったりします。夜行列車に乗って、朝、目的の駅に着くまでの間や、何もすることがない電車の移動中。飛行機の出航が遅れて、飛行場でひたすら待たされているとき。あるいは、台風で飛行機が欠航となり、もう一日、ホテルに泊まらなければならなくなったとき。そうしたときに、歌が多く生まれてきました。

⑪私に限らず、芸術にしろ、あるいは何らかの発明にしろ、クリエイティブなものが、こうした「間」から生まれてきたという例はたくさんあるように思います。

⑫英語に「Ere (キル・タイム)」という表現があります。「暇をつぶす」という意味ですが、そこには、本来「ア」を生むはずの「時間(タイム)」を無駄に「殺す(キル)」という意味が含まれています。つまり、「time is money (タイム・イズ・マネー)」という慣用句があるように、時間は生産的な「イ」を生むものとして使うべきという考え方がうかがえます。しかし、私はけつて歌で時間の穴埋めをしているだけではなく、嬉しいことに歌づくりで自分が最も自分らしくなれるのです。

⑬そういうふうに「間」からクリエイティブな体験が生まれる場合、何か目的をもって、その「間」を過ごしているわけではありません。私は目的もなく、「間」から生まれてきたものが、実は大きな「ウ」をもっているかもしれないと思っています。もちろん良い歌が売れるわけでもなく、今の私は売れる歌をつくるために歌づくりをしているわけでもないのです。しかも、作品の価値がわかるのにも、すごく時間がかかるかもしれない。

⑭不遜な比較ですが、ゴッホなどのように、生きている間に自分の作品が評価されることなく、死後、高い評価を受けることになった芸術家はたくさんいます。むしろ、多くのクリエイターが生前に高い評価を受けるようになったのは、現代になってからともいえます。

⑮でも、「間」をあつてはいけないものとして、次々と埋めていくような現代社会の中では、「間」から自分らしくてクリエイティブなものが生み出されたり、それが評価されるまでの長い「間」に耐えるという機会も、どんどん失われていっています。

⑯私が行なっている精神分析的臨床の場でも、「間」に苦しんでいる患者さんは少なくありません。「間」が生じて、ふと自分のことを見つめ直す瞬間が訪れ、そこに悩みが生じる。暇になると、過去の苦しい経験が次々と心に浮かび、自分が価値のない人間に思えてしまう。自分の人生が、とてつもなく「エ」と感じられてしまい、そこに吸い込まれる漠然とした不安や異常な考えで心を病んでしまう。だから、「間」が生じるのをとても恐れている。

⑰「間」は、クリエイティブなものを生み出す可能性を秘めている一方、容易に「魔」にも転換してしまう危険性があります。ふとしたきっかけで悪事に手を染めてしまうことを「魔が差す」といいます。その「魔」です。

⑱こうした患者さんに限らず、「間(魔)」を恐れ、それを埋めるために過度にアルコールを摂取したり、危険なドラッグに手を出してしまったり、という例も少なくありません。「間」を消そうとするために、逆に、自分の人生そのものをつぶしてしまっているともいえます。つまり、「間」は扱い方によっては深刻な

問題を引き起こす可能性があり、だからこそ、「間」というものを知り、それにどう向き合うかは、人が生きていくうえで、とても大切なことなのです。特に、あらかじめ「間」を存在してはいけないものとして、「間」に向き合う機会を失っている現代においては、これについて語り考えることは重要でしょう。

⑮突然、訪れた「間」にどう対処してよいかわからず、大きな「むなしさ」が訪れ、立ち直れなくなってしまう。そうならないためには、どうすればよいのか。私が、本書を書こうと思った要因は、そんなところにもあります。

⑯この「間」や「むなしさ」を考えるうえで、私がかつて芸能活動に身を置いていたという経験も、役に立つように思います。私が医学生だったとき、まさに神様のいたずらともいえるような形で、芸能界にデビューしました。

⑰観客、聴衆から大変な熱狂を受ける華やかな表舞台。しかし、ひとたび、表舞台を降りれば、先ほどまでの熱狂はなく、ごく普通の日常が広がる。そこに大きな「むなしさ」が訪れます。あの熱狂は何だったのだろうか、どこへ行ってしまったのだろうか。表舞台の自分と舞台を降りた後の自分とどっちが本当の自分なのだろうか。そして、熱狂を受けていない、日常の自分に価値があるのだろうか。

⑱表舞台と舞台を降りた後、すなわち裏舞台との大きな落差から生じる「むなしさ」に、バンドの仲間たちも苛まれ、私とともに苦しんだという経験があります。

⑲表と裏、その両方を眺める見方をすれば、ごくつまらない、もしくは悲惨な日常を過ごしていても、舞台の上では明るく、華やかにふるまい、観客や聴衆を喜ばせて、輝いていることが求められます。よく、芸能という仕事は、親の死に目にも会えないなどといわれますが、日常という裏舞台と、輝かなければならない表舞台との落差・ギャップがとても激しいのです。

⑳そして、このギャップに耐えられずに、舞台上の役割や、舞台を降りた後の日常にとってもない「むなしさ」を感じてしまうケースも少なくありません。ミュージシャンなど芸能人が違法な薬物に手を出したり、自死してしまったという報道が繰り返されますが、そこには、こうした大きなギャップが関係しているように私には感じられます。

㉑こうしたギャップは、よくビエロの存在にたとえられます。白塗りに笑顔のメイクをしたビエロは、サーカスという華やかな舞台でおどけて、ひたすら観客を笑わせる役割を担っています。ビエロを演じている人間のつらい体験、苦しい思いは、笑顔のメイクとおどけによって覆い隠されています。

(出典…岩波新書 きたやまおさむ『むなしさ』の味わい方』より)

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部(A)について、「それ」を具体的に表現した箇所を本文中から十字以内で抜き出して答えよ。

問三 傍線部(B)について。アナログ的に「間」を使う場合と、スマホでデジタル的に「間」を埋める場合の違いはどういう点にあるか。解答欄の「」内に入るべきことばを本文中から三十字以内で抜き出して答えよ。

問四 傍線部（C）について。ここに記された「間」はどのような性質を帯びた「間」か。本文中から十五字以内で抜き出して答えよ。

問五 空欄ア～ウに入るべき同じことばを本文中から二字以内で抜き出して答えよ。

問六 空欄エに入るべきことばを、本文中から四字で抜き出して答えよ。

問七 傍線部（D）について。「これ」が指す内容を、本文中から二十五字以内で抜き出して答えよ。

問八 傍線部（E）について。「こうした」が指す具体的な内容を本文中から二十五字以内で抜き出し、解答欄の「」内を補充する形で答えよ。

※以上で問題は終了です。

模範解答

[illegible]

2025 年度一般選抜第 2 回 問題と解答

試験科目・配点

試 験 科 目	時 間	配 点
英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰ）	50分	100点
国語（現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く））	50分	100点

英語

I. 次の長文を読んで、各問いに答えなさい。

By the early nineteenth century, you could find chocolate houses* in towns across Europe, but ①not everybody liked the drinks there. ②Sometimes there were hard pieces of shell* from the cacao beans in the hot chocolate. There is also a lot of fat, called cocoa butter, in cacao beans. This often stayed on top of the drink, and people did not enjoy that.

③Around this time, people started to invent and use machines more than ever before. One Dutch inventor called Conrad Van Houten began to think about chocolate. He wanted to make a smooth drink without cocoa butter on the top. (ア) he worked hard for many years and in 1828 he invented a machine called the cocoa press.

Van Houten ground* cacao beans into a paste called chocolate liquor and then used his cocoa press to take (イ) most of the cocoa butter. You can still find machines like this in chocolate factories around the world now.

Chocolate without cocoa butter is often called cocoa solids. Van Houten dried these cocoa solids and then ground them into cocoa powder. It was now smoother and (ウ) better than before and ④people could easily make drinks with it. We use this cocoa powder in our hot chocolate and home cooking today.

Van Houten's cocoa press was (エ) for chocolate makers like J.S. Fry and John Cadbury in England. Later these businesses bought his wonderful machine.

注

chocolate house* : 17世紀から19世紀初期にヨーロッパで主に富裕層に利用された社交の場

shell* : 殻 (から)

ground* : grind (ひいて粉にする) の過去形

【出典】

Chocolate by Janet Hardy-Gould

1. 空所（ア）～（エ）に入る最も適切な語句を選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----|----------|-----------------|----------------|--------------|
| （ア） | a. But | b. Nevertheless | c. So | d. Otherwise |
| （イ） | a. in | b. out | c. over | d. on |
| （ウ） | a. much | b. very | c. more | d. many |
| （エ） | a. worse | b. difficult | c. unnecessary | d. important |

2. 下線部①を和訳しなさい。

3. 下線部②を和訳しなさい。

4. 下線部③を和訳しなさい。

5. 下線部④はどのような意味か。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人々はココアパウダーと一緒に簡単に飲み物を作らせることができた。
- イ 人々はココア固形分を使って簡単に飲み物を作ることができた。
- ウ 簡単にココアパウダーを使って人々に飲ませることができた。
- エ 人々はココアパウダーで簡単に飲み物を作ることができた。

6. 本文の内容と合致するものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 多くの人はココアの表面に脂肪分が浮かぶのを楽しんだ。
- イ パン・ホーテンが発明したココアプレスは、現在の工場で全く使われていない。
- ウ ココア固形分を乾燥させたものをひいて粉にしたのが、ココアパウダーである。
- エ ジョン・キャドバリーなどのチョコレート製造会社は、パン・ホーテンの発明品を購入しなかった。

Ⅱ. それぞれの空所に最もよく当てはまる語句を選び、番号で答えなさい。

1. I would rather watch my favorite drama at home than () hiking.
① going ② went ③ go ④ to go
2. He entered the room and () off his coat.
① took ② got ③ turned ④ went
3. I'm looking forward to () the old friend for the first time in ten years.
① be met ② meet ③ meeting ④ have met
4. I usually () to bed at 11 p.m.
① will go ② have gone ③ am going ④ go
5. You have to do your job, () your boss said.
① until ② while ③ despite ④ as
6. John and Ken discussed the project () lunch.
① above ② over ③ on ④ in
7. () knows Mary is impressed by her consideration.
① Whatever ② Whichever ③ Whenever ④ Whoever
8. If you () that coupon, you could have bought that item with a 20% discount.
① had had ② would have ③ have ④ should have
9. I will let you () the results of my exam.
① known ② know ③ to know ④ knowing
10. The police arrived on the scene as quickly as ().
① probable ② they can ③ possible ④ possibility

Ⅲ. AとBの会話が自然なやりとりになるように、空所に入れるのに最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

1. A : What did you think of Mr. Suzuki's lecture?

B : ()

- ① I didn't think so.
- ② I plan to attend it.
- ③ Yes, I did.
- ④ It was very useful to me.

2. A : Why is the restaurant closed now?

B : ()

- ① All the dishes at that restaurant are very delicious.
- ② It is being repaired now.
- ③ It has been closed for three days.
- ④ I would go there frequently.

3. A : How can I contact you?

B : ()

- ① You can't search for the information.
- ② Yes, you can contact me.
- ③ You can reach me at this number.
- ④ I'd like to contact you.

4. A : Have you ever been to Hawaii?

B : ()

- ① My son is going to study in Hawaii.
- ② I'm interested in Hawaiian culture.
- ③ I will go on a business trip next month.
- ④ No, I've never been there. I'd like to go there someday.

5. A : Isn't Tom going to come to the party?

B : ()

- ① I think it's a surprise party.
- ② I think he is.
- ③ I'm not available that day.
- ④ I think he is a handsome young man.

IV. 日本文と同じ意味になるように () 内を並び替えたとき、() 内で 2 番目と 4 番目にくるものの番号を答えなさい。ただし、文頭に使う語も小文字で書かれています。

1. そのようにして私はその会社に入った。

(① I ② is ③ got ④ how ⑤ that) into the company.

2. 台湾の気候は韓国より温暖だ。

The (① Taiwan ② that ③ climate ④ than ⑤ in ⑥ is
⑦ warmer) in South Korea.

3. ロビンソンさんは同僚たちに会議室が変更されたことを知らせた。

Mrs. Robinson (① change ② colleagues ③ the ④ informed ⑤ of
⑥ her) of the conference room.

4. メアリーは私が会社でその仕事をするのを助けてくれた。

Mary (① the ② helped ③ do ④ task ⑤ me) at the office.

5. 鈴木さんは彼の生徒たちから尊敬されている。

Mr. Suzuki (① his ② looked ③ to ④ is ⑤ by ⑥ up) students.

模範解答

I.

1.	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
	c	b	a	d

2. 全ての人がそこの飲み物を好んでいたというわけではなかった。

3. 時々、ホットチョコレートの中にカカオ豆の固い殻が入っていた。

4. この頃、人々はこれまでよりももっと機械を発明し、使い始めました。

5.

エ

6.

ウ

II.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
③	①	③	④	④	②	④	①	②	③

III.

1	2	3	4	5
④	②	③	④	②

IV.

1		2		3		4		5	
2 番目	4 番目	2 番目	4 番目	2 番目	4 番目	2 番目	4 番目	2 番目	4 番目
②	①	⑤	⑥	⑥	⑤	⑤	①	②	③

国語

一次の文章を読み、後の問いに答えよ。(設問の都合上、文章の一部を改変してある。また、設問の都合上、各段落の冒頭に番号を付してある。)

①和食を考えるにあたって歴史をみるシテンは欠かせない。日本各地の食をつぶさにみてゆくと、これらの伝統が今なお地域の食に色濃く影響している事例がみられる。言い換えれば、時間的な多様性である。

②武士が登場し、その影響が無視できないほど大きくなってきたのが一〇〇〇年ほど前の平安時代から鎌倉時代にかけてのことである。それが、武士が政権をとり政治の中心に座ったことで、政治のもう一つの舞台が東日本に登場した。それ以来、にわかづくりの首都鎌倉と京という二つの中心の間には交流が生まれ、人との移動がカッパツになった。東海道のおこりである。そして二つの舞台(中心)ができたことで、日本には、いろいろな分野に二つの中心ができた。国家と国土、権力と権威、聖と俗などに「二つの中心」ができ、それらが相互作用しあつて日本とその文化ができていたと説いたのが、「権円の日本」論である。公家の食と武家の食も、そうした関係にあるといつてよい。

③この武家の時代、先にも触れたが、一二世紀の末期から一九世紀後半までの七〇〇年足らずの時代は、全球的にみてやや寒冷で乾燥の時代であつた。とくに後半期には、ユーラシア大陸の中央部も乾燥がキョクドに進み、マルコ・ポーロの時代には内陸を通つていた東西交易路はすたれ、代わつて海のシルクロードが交易の中心になつた。

④「南蛮貿易」のおこりは、そのケツカでもある。日本列島でも、この時期は低温と乾燥の時代だつたようだ。生産力は停滞した。その代わりにさまざまな農業技術が開発され、生産は大きく伸びはしなかつたものの、大きな低下も免れた。

⑤武家は、その歴史を通じてさまざまな文化をつくり上げた。むろん食文化もそれに含まれる。武家の時代に中国から伝わつた禅宗は、彼らの思想の体系をつくり上げるのにコウケンした。精進料理やその素材もそれに含まれる。精進料理の系譜は、修験道やさらに古くから列島に脈々と続く伝統文化の一つである。禅宗は、それを体系化する役割を担つた。

⑥武家文化といえはやはり質素儉約の精神だろう。そしてその精神を支えたものは、公家社会への反発もあつただろうが、なんといつても東国という土地がらと、乾燥冷涼だつた環境が関係していると思われる。もともと東日本は米づくりに適した環境下にはなかつた。比較的温暖な東海地方でさえ、稲作に向いた土地は少なかつた。武家たちが京へ京へと駒を進めたがつたその背景には、むろん都に上るという意図もあつたのだから、西日本の米産地へのあこがれがあつたのだと思われる。

⑦武家の暮らしのもう一つの特徴は、彼らの労働の中心が肉體労働だつたことだろうか。この時代のとくに初期には、職業軍人はほとんどなく、兵士の中心は普段は農村にいて農業に従事していた。米を含む穀類、味噌、鳥獣の肉などが食べられていたようだ。刀剣類は武器であると同時に、鳥獣の狩猟の道具でもあつた。狩猟は戦闘の訓練にも通じていた。江戸時代の中期以降、日本社会はシカやイノシシなど野生動物の肉を含めて肉食をしなくなつていったが、その背景には秀吉の刀狩りと一七世紀後半の「生類憐みの令」があつたといわれる。

⑧戦国時代は、末期の大規模な戦闘の時代を別とすれば、この時代の戦争には季節があつた。つまり、戦いは秋の稲刈り終了後、農閑期におこなわれた。農閑期に戦闘などしようものなら国の経済力は大きくそれが

衰退につながる。できることは、一日も早く収穫を終えて戦争の準備をすることだった。

⑨戦争になると、まずは兵站を整える必要があった。派遣する戦力を支えるだけの食料が必要である。もち運びが利き、しかもかなりの時間の保存が必要である。飯も炊き立てというわけにはゆかない。冬ならば握り飯が少しの間ならばもった。餅はもう少し日もちがした。さらにもたせるにはこわ飯を糰ほいなどにすることもあった。戦争が、食料の運搬や保存技術の開発につながるのとは古今東西変わらない。

⑩タンパク質に富む保存食として、味噌がよく使われた。味噌づくりには多量の食塩を使用するので、味噌を摂ればタンパク質も塩も摂れた。味噌を染みこませた芋がら（すいき、ともいう）を、笠のあご紐や荷物を縛る紐に使った「芋がら縄」は、戦争には優れたインスタント食品に早変わりした。

⑪茹でたダイズに納豆菌（枯草菌の仲間）を加えてつくる納豆も高タンパクの保存食である。京都市の北部にある京北地区には、これを餅でくるんだ「納豆餅」と呼ばれる食べ物がある。一説によると、これは明智光秀の発明品だという。これも、冬ならばしばらくは保存が利きそうだ。戦争に備えた特別の日の食文化が武家の食文化だということもできよう。智将といわれた光秀のいかにも考えそうなことではある。

⑫アの特徴を今に色濃く残すのが、東海地方や甲信越地方である。東海地方はその昔、東から伊豆（豆州）、駿河（駿州）、遠江（遠州）、三河（三州）、尾張（尾州）と続き、そして美濃（美州）へと達した。⑬むろん領地や国境、さらに支配者は時代により替わったが、これらの地域が数百年にわたり武家の支配を受けたことに変わりはない。その影響は今なお地域の固有性として残り続けている。

⑭伊豆は、鎌倉幕府の執権として力をふるった北条氏の本拠地である。駿河は、今川氏や晩年の徳川家康が本拠地とした地域で、その中心地が今の静岡（駿府）である。遠州は、若き家康が暮らした地で中心は浜松、三河は今の愛知県東部にあたり本拠地は岡崎、そして尾張の中心地はいわずと知れた名古屋である。美濃は、斎藤家や織田家の拠点として岐阜の街が発展したが、当初から京への通過点としても重要な土地であった。

⑮武家文化を代表する食品として、先にも書いた味噌をまずあげておこう。そして東海地方の味噌の特徴は、三河を中心に豆味噌が卓越していることだろう。旧三河の国の本拠地であった岡崎には、今も豆味噌の老舗が残されている。岡崎市付近は地図上では濃尾平野の一角を占めるが、細かくみれば微高地（台地）と低地が入り交じる複雑な地形をしており、米づくりにはあまり適した土地ではなかった。低地ならば水がありそうなものだが、低地は矢作川の洪水の常発地帯で安定的なイには不向きだった。いっぽう微高地は水が足りずやはりウには不向きであった。なにしろこの地は、幕末から明治時代にかけて整備された明治用水ができるまでは、エには適さない土地だったのである。

⑯いっぽうダイズは「畑の肉」といわれるほどに高タンパクで、タンパク質が不足しがちだった日本列島の食にあって、それを補う救世主のような作物だった。加えてダイズは、ほかのマメ科植物と同じく窒素固定能力をもち、化学肥料のなかった時代にあつては作物に窒素肥料分をもたらす、やはり救世主のような存在である。

⑰豆味噌は、蒸すか茹でるかしたダイズに麹菌をつけ、塩水で調整してつくるダイズばかりの味噌で、その分、高タンパクの食品である。塩分もあつて、塩の入手が困難であつた内陸部の人びとにはまたとない食品でもあつた。

⑱また、豆味噌の製造には年単位の時間がかかるが長期の保存に堪える。兵站としては最高の食品の一つで

あった。塩分が高いことから、戦闘を含む重労働にも向いていた。おなじ味噌のなかでも豆味噌は武士社会向きの味噌であったといえよう。今でこそ高塩分が健康に悪いなどといわれ、味噌にまで「減塩」の文字が躍るが、それはその気になればいくらでも食塩を手に入れることができる、今だからこそのことである。交通網が発達していなかった時代には、食塩を手に入れるためにあらゆる方策が講じられていたのである。

(出典…平凡社新書 佐藤洋一郎『和食の文化史 各地に息づくさまざまな食』より)

注1 兵站…戦時に、前線部隊の後方にあつて、人員・兵器・食糧などの輸送・補給を担当する活動機能。

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部(A)「伝統」と同じ意味を表す言葉を、本文中から八字以内で抜き出して答えよ。

問三 傍線部(B)の「そうした関係にある」とはどのような関係にあるのか。解答欄に語句を補充して説明せよ。

問四 傍線部(C)の「それ」が指す内容を本文中から五字以内で抜き出して答えよ。

問五 傍線部(D)について。筆者は「食料の運搬や保存技術の開発につながる」理由をどのように考えているか。本文中から二十五字以内の箇所を抜き出して「内に入れ、答えよ。」

問六 空欄アに入るべきことばを、本文中から六字以内で抜き出して答えよ。

問七 空欄イ、ウ、エに入るべき同じ二字熟語を本文中から抜き出して答えよ。

問八 傍線部(E)について。日本の食においてタンパク質が不足がちだった歴史的原因について、筆者はどのように推測しているか。本文中から三十字以内の箇所を抜き出して「内に入れ、答えよ。」

※以上で問題は終了です。

2025 年度一般選抜第 3 回 問題と解答

試験科目・配点

試 験 科 目	時 間	配 点
英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰ）	50分	100点
国語（現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く））	50分	100点

英語

I. 次の長文を読んで、各問いに答えなさい。

Students drop out of college for many different reasons. A few brilliant businessmen such as Steve Jobs become (ア) successful at a young age that they do not need to graduate. And exceptional* athletes, such as NBA star Kobe Bryant, can leave school early and play professional sports. ①But while some dropouts are successful, most people still need a diploma* to get a decent-paying* job. (イ) he never finished college himself, Bill Gates believes that getting a degree* is generally the right choice. He also argues that universities must work harder to ensure that students graduate with valuable career skills.

Most dropouts do not leave school to follow a dream. Many give up because they cannot handle the academic challenges and because they do not receive enough guidance from the university. Others leave because they have trouble paying tuition*. ②As Gates once pointed out on his blog, these dropouts end up feeling badly about themselves. “Their entire sense of (ウ) they can achieve in life is damaged,” he wrote. In fact, statistics show that college graduates have more rewarding jobs and higher incomes. They even appear to be healthier than those who did not finish college. Thus, universities should do more to keep struggling and low-income students in school.

③It is not only the students themselves who benefit from graduating, however. We are all better off when more people graduate because a healthy economy depends (エ) it. Educated workers will only be more in demand in the future. Salaries will continue to rise for these workers, while salaries will fall for those without college degrees. As Gates warns, ④this will increase poverty and inequality.

注

exceptional* : 特にすぐれた

diploma* : 卒業証書、修了証書

decent-paying* : 人並みの給料の

degree* : 学位

tuition* : 授業料

【出典】

READING FOR THE REAL WORLD INTRO FOURTH EDITION

by Peggy Anderson・Sam Robinson

1. 空所（ア）～（エ）に入る最も適切な語を選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----|------------|----------|-------------|----------|
| （ア） | a. such | b. so | c. very | d. too |
| （イ） | a. Because | b. If | c. Although | d. Until |
| （ウ） | a. what | b. which | c. that | d. where |
| （エ） | a. in | b. on | c. of | d. at |

2. 下線部①を和訳しなさい。

3. 下線部②を和訳しなさい。

4. 下線部③を和訳しなさい。

5. 下線部④はどのような意味か。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 大学を卒業した人もそうでない人も給料が下がるので、貧困と不平等が増大するだろう。
- イ 大学の学位のある人は給料が上がるので、貧困と不平等は減少するだろう。
- ウ 大学の学位のある人となない人との給料の差が大きくなってきているので、貧困と不平等が増大するだろう。
- エ 大学を卒業する人とそうでない人との給料の差が少なくなってきているので、貧困と不平等が増大するだろう。

6. 本文の内容と合致するものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ア ビル・ゲイツは大学を卒業している。
- イ 学問上の課題に対処することができないという理由で、大学を中退する人は少ない。
- ウ 大学の学位のある人はそうでない人よりも健康的であるように見えない。
- エ 大学を卒業する人が増えると、結果的に私たちの暮らし向きが良くなる。

Ⅱ. それぞれの空所に最もよく当てはまる語句を選び、番号で答えなさい。

1. It was () a cold day that I didn't go shopping.
① so ② such ③ too ④ very
2. The young man () the blue shirt is my cousin.
① in ② for ③ on ④ to
3. John () about his trip to Hawaii this summer.
① talked ② said ③ informed ④ told
4. This novel is () the best one I have ever read.
① very ② so ③ many ④ by far
5. If it () tomorrow, I will stay home.
① will snow ② snows ③ snowed ④ would snow
6. I was very () when I heard the violin concert yesterday.
① to impress ② impressing ③ to be impressing ④ impressed
7. I fell () on the train because I hadn't slept enough that day.
① sleep ② asleep ③ slept ④ sleeping
8. It is unclear () Betty will come to the party or not.
① which ② even if ③ what ④ whether
9. Mr. Suzuki has a son () works at a bank.
① what ② who ③ which ④ whose
10. It's about time we () the roof repaired.
① get ② have got ③ got ④ had got

Ⅲ. AとBの会話が自然なやりとりになるように、空所に入れるのに最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

1. A : How do you get to your college?

B : ()

- ① It takes thirty minutes.
- ② No, I don't.
- ③ I'm going to leave home early.
- ④ If the weather is good, I go by bicycle.

2. A : Is this product sold out?

B : ()

- ① No, because it is so popular.
- ② I'm afraid so.
- ③ I don't like it.
- ④ It is made in Germany.

3. A : Where can I get on a bus to Nagoya Station?

B : ()

- ① I don't know when the bus gets there.
- ② Yes, Nagoya is my favorite place.
- ③ There are many restaurants in Nagoya.
- ④ The bus stop is on the other side of the street.

4. A : When did you start working at that company?

B : ()

- ① I liked to work at that company.
- ② No, I didn't.
- ③ Three years ago.
- ④ I have worked in Hiroshima.

5. A : Which country did Jane say she was from?

B : ()

- ① She said she had never traveled abroad before.
- ② She has just come back from France.
- ③ She's from the UK.
- ④ She is going on a business trip to Germany next time.

IV. 日本文と同じ意味になるように () 内を並び替えたとき、() 内で 2 番目と 4 番目にくるものの番号を答えなさい。ただし、文頭に使う語も小文字で書かれています。

1. 屋根の修理をしてもらうのに3000ドルかかった。

(① \$3000 ② have ③ cost ④ to ⑤ it ⑥ me) the roof repaired.

2. そのような失礼なことはしないほうが良い。

You'd (① rude ② not ③ such ④ better ⑤ do) things.

3. テーブルにある軽食をご自由にお食べください。

Please (① on ② to ③ help ④ snacks ⑤ the ⑥ yourself)
the table.

4. スミスさんはそのやりがいのある仕事を喜んで引き受けた。

Mr. Smith (① to ② on ③ was ④ take ⑤ willing) the challenging job.

5. 交通渋滞のせいで、私はそのパーティーに30分遅れた。

I was (① for ② party ③ thirty ④ the ⑤ minutes ⑥ because
⑦ late) of the heavy traffic.

模範解答

I.

1.

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
b	c	a	b

2. しかし、中退して成功する人もいるが、ほとんどの人は人並みの給料の仕事に就くために、まだ卒業証書が必要だ。
3. ゲイツがかつて彼のブログで指摘したように、これらの大学中退者たちは結局自分自身に対して悪い感情を抱くようになる。
4. しかしながら、卒業することから利益を得るのは学生自身だけではない。

5.

ウ

6.

エ

II.

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
②	①	①	④	②	④	②	④	②	③

III.

1	2	3	4	5
④	②	④	③	③

IV.

1		2		3		4		5	
2番目	4番目	2番目	4番目	2番目	4番目	2番目	4番目	2番目	4番目
③	①	②	③	⑥	⑤	⑤	④	⑤	①

国語

一次の文章を読み、後の問いに答えよ。(設問の都合上、文章の一部を改変してある。また、設問の都合上、各段落の冒頭に番号を付してある。)

①建築は人が使うことをセンチに^①した器である。だから使いやすくなくてはいけない。さらに地震や台風で壊れてしまつては困るので強くなければならない。加えて、建築は人びとの住む環境を^②セイする芸術作品でもある。だから美しくなくてはならない。

②「用・強・美」という建築の三原理を編み出したのは、ローマ時代の建築家ウィトルウィウスである。彼は一〇巻にわたる『建築書』を著し、皇帝アウグストゥスに献納した。これは現存する最古の建築書であり、言うなれば建築の聖書のようなものだ。

③彼の建築書は、書かれた当時よりも後世に大きな影響力を持つたと言われている。とくにルネサンス期にはすべての建築家必携の書となり、その後ほとんどすべてのヨーロッパの言語に^③ホンヤクされた(ダ・ヴィンチはウィトルウィウスの『建築書』の内容を人体図に表した)。

④ウィトルウィウスの『建築書』に記された「用・強・美」が二〇〇年以上たった今も頻繁に引用され、変わらず建築の原理原則だと言われていることは^④キヨミ深い。そしてその分類と三原理^⑤それぞれの重要性は、大学の教育にも表れている。

⑤建築学科は一般的に工学部に属している。美術学部や家政学部にもあるが、その数は少ない。工学部の建築学科の教育分野は大きく三つに分かれている。一つめは建築の設備や環境の分野、二つめは建築の基礎や柱梁などの構造の分野、三つめは建築の意匠、計画、歴史の分野である。これら三つの分野と用・強・美の関係を見てみよう。

⑥一つめの設備や環境の分野は、使う人の使用に関係することなので、これは「用」に分類される。二つめの構造の分野は、建物の強さに関係するので、「強」に属する。そして三つめの意匠の分野は「美」に、計画は「用」に、歴史は「美、あるいは用」に分類される。美術学部では美に、家政学部では用^⑥に^⑦ジュウテンが置かれそうなのだが、建築を学ぶ大学生は皆、三分野を包括的に学ばなければならない。建築学科を卒業した学生たちは、建築士になるために、三分野がくまなく出題される国家試験に合格しなければならないからだ。

⑦つまり現代建築を作り上げるための学問の根底には、用・強・美という原理が行き渡っており、変わらずとても重要なのだ。ウィトルウィウスから二〇〇〇年を過ぎても四つめの原理が現れないのが、むしろ不思議なほどである。そのくらい建築というものは、長い歴史のなかで大きな変化がなくゆつくり進んでいる人間の営為と言えるのかもしれない。それでは、用・強・美のなかでも最初の二つである用と強について、もう少し詳しく見てみよう。

⑧建築の設計では、設計図に基づいて工事が行われ、建物が竣工したのちに、いくつかのルーチン作業がある。一つは、役所、設計事務所、クライアントが行う「検査」である。建築に限らず何かを作るとき、検査をするのは世の常である。そして検査が無事終わると、施工者はその建物を発注者に引き渡す。建物の管理責任は、工事中は施工者にある。よってその間、火事でも起ころうものならその責は施工者にある。しかし管理責任は、工事の終了とともに発注者に移管される。

⑨引き渡しの儀式のとき、書類捺印以外に行うもう一つのイベントがある。建築のトリセツだ。建物にはさ

さまざまな電気や機械の設備がついている。明るさや色の変わる照明から、空調機、除湿機、床暖房、風呂給湯機、調理器具などである。それらの説明書は膨大にのぼり、半日かけて説明を受けたところで、忘れてしまうのがオチであろう。

⑩そうした家電製品の二〇も三〇も続く説明を、発注者がその場ですべて理解するのは困難だが、建築のトリセツというイベントを経てやっと、建物は発注者に引き渡されるのだ。建築にトリセツがあることはいわば建築が「ア」化してきたことを象徴する。利便性を追求する二〇世紀的な現象である。

⑪巨大建築も同様である。二〇世紀になって高層建築ができるようになったのは、鉄骨や鉄筋コンクリートなど強固な材料が使えるようになったという理由のほかに、エレベーターや空調機という設備機器の発明が欠かせなかった。エレベーターがなければ建物は「イ」し、空調機がなければ建物は広くできなかったからだ。

⑫私たちの日常は、その後、3C（カラーテレビ、カー、クーラー）によってさらに快適になった。電化製品による利便性は、建築のなかにもたえず導入され続けてきた。「用」に分類される設備の研究、開発の賜物である。

⑬「用」の次は「強」について。建築学科に入学する学生のほとんどはかつて、用・強・美のなかで美を学びたくて入ってきた。建築とはデザインだと思っている学生が大半だったからである。しかし美を極めるのはなかなか難しく、用や強の奥深さを知り、研究テーマを変えることも多い。こうして、学生の進路はおのずと三等分されていた。しかし昨今、地震災害を身近に経験して育った学生たちは、最初から「災害に強い建築を作りたい」と言うようになった。

⑭壊れない建築を学ぶためには、建物が「ウ」を知らなければならない。一言で言い切れるものではないが、日本では、地震、火事、台風による風害・水害が主要な崩壊原因にあげられよう。

⑮しかしそれら以外にもいくつかの原因はある。例えば、建物の老朽化である。環境の厳しいところでは、朽ち果てにくい素材が選ばれる。また、戦時における爆撃や車が突入して建物が大破する事態を想定することもある。こうした事態は稀だが、政府関係の建物は攻撃を想定したうえで、壁の厚さを検討する。ガソリンスタンドを囲う壁がとても厚いコンクリートでできているのは、そうした不慮の事故を防ぐためである。

⑯さて地震、火事、風害、水害と建築の関係を見てみよう。学術領域で言えば、地震と風害を扱うのは構造であり、火事を扱うのは防災、水害を扱うのは土木（河川、堤防、ダムなど）の分野である。

⑰まず、地震と風害を扱う構造について。これら二つの災害に共通することは建物の外部から建物に強力な力が加わる点である。

⑱地震とは地面が揺れる現象だ。地震対策は、三つの方法がある。一つは揺れに対抗する耐震という考え方で、すなわち建物を頑丈に作ることで、建物の柱や梁を強い材料で堅固に作る方法である。

⑲ほか二つの方法は、ここ数十年で画期的に進化した免震と制振である。前者の免震は建物と最下部の基礎との間や建物の階の中間に積層ゴムやダンパーなどの装置を噛ませることで地震力を低減する。積層ゴムは水平方向に柔らかいため地震力を低減し、ダンパーは地震の振動エネルギーを吸収するので、建物自体を必要以上に頑丈にする必要がなくなる。後者の制振とは、建物の複数箇所に制振ダンパーという力を吸収する装置を設置することで、揺れそのものを吸収して止めるものである。

⑳風害は地上を通り抜ける強い空気の流れが建物を押し倒したり、巻き上げたりする災害だ。地震は下から

力が加わるが、風は横や上から力が加わるので、建物への作用は異なる。しかし考え方は地震対策と同様である。壁や屋根を堅固に作る、あるいは加わる力をダンパーで吸収するという方法をとる。

②火事は木造建築の多い日本では頻繁に起こる災害である。木造密集エリアで家屋が全焼、といった悲惨な映像も目にする。都会の家屋が密集する、延焼の危険性がある場所では、建築基準法をもとに外壁を燃えない材料で作ることが義務づけられている。しかし建築年の古い既存不適格と呼ばれる建物がある。昔は問題なかったが現行法では違法となっている建物であるが、改修の義務はないとされる。だが迫りくる危険を考えれば、木造密集エリアにたいする超法規的な防火対策と支援を、行政は検討する必要があるだろう。

③水害はどうか。東日本大震災の津波の映像を記憶している方も多いだろう。水の力は、津波はもとより、河川の氾濫なども、強大ゆえに甚大な被害をもたらす。水害に対処するためには、建築は土木分野の治水対策などとして考えていく必要がある。役所が作るハザードマップに示される範囲が水害の危険性が高い場所である。防災の原則は「危ない地域に暮らさないこと」だという言葉があるが、今ある生活を尊重しつつ、危険を低減していくのはそれほど簡単ではない。

④以上、本節では建築を見る上での補助線として、「用・強・美」という建築の三原則を紹介した。なかでも「機能の器」を語る上で重要なのが、用（設備や環境）と強（構造）である。

（出典…中公新書 坂牛卓『教養としての建築入門』より）

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部（A）とほぼ同じ内容が含まれる段落の番号をすべて答えよ。

問三 「用・強・美」という建築の三原理を編み出したローマ時代の建築家ウィトルウィウスから、二〇〇〇年を過ぎた現在でも「四つめの原理」が現われていない。その理由を筆者はどのように推測しているか。本文中から四十五字以内の箇所を抜き出して解答欄の「」内に入れ、答えよ。

問四 空欄アに入るべき四字熟語を本文中から抜き出して答えよ。

問五 空欄イに入るべき八字以内のことばと、空欄ウに入るべき五字以内のことばをそれぞれ自分で考えて答えよ。

問六 地震と風害は建物の外部から建物に強力な力が加わる点で共通している（段落⑭）。では、この二つの災害の違いはどこにあると言えるか。本文中から二十五字以内の箇所を抜き出して解答欄の「」内に入れ、答えよ。

問七 傍線部（B）について。これらの方法は、地震や風害の持つ破壊力をどうするための方法か。解答欄の「」内に入るべき二字熟語を入れ、答えよ。

問八 段落②に「今ある生活を尊重しつつ」と見える。「今ある生活を尊重しつつ」とは具体的にどういう状態か。本文中からことばを抜き出し、解答欄の「」内に入れ、答えよ。

※以上で問題は終了です。

模範解答

一									
問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一		
維持しながら、という状態	「水害の危険性が高い場所」での生活を	の地方 法	地震 や	ら「地 震が加 わる」と 破壊力 を「低 減」する ため	イ「高 くできな かつたウ 壊れる 原因	電化製 品	「と言 えなく ゆと推 測し てい る	「な変 化がな くゆ つくり 進んで いる人 間の営 為	「建 築とい うものは、 長い歴史 のなかで 大き
									⑥
									⑦
									②
									形成
									③
									翻訳
									④
									興味
									⑤
									重点